

CASBEE-建築(新築)2016年版
国土交通省省庁・物産センター新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
C 建築物の環境品質					2.0
Q1 室内環境			0.30		2.1
1 音環境		1.0	0.15		1.0
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.40		
1.2 遮音		1.0	0.40		
1 開口部遮音性能		1.0	0.60		
2 界壁遮音性能		1.0	0.40		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-		
1.3 吸音		1.0	0.20		
2 温熱環境		1.9	0.35		1.9
2.1 室温制御		1.7	0.50		
1 室温		1.0	0.38		
2 外皮性能		1.0	0.25		
3 ソーン別制御性		3.0	0.38		
2.2 湿度制御		1.0	0.20		
2.3 空調方式		3.0	0.30		
3 光・視環境		2.5	0.25		2.5
3.1 昼光利用		3.6	0.30		
1 昼光率	建具を多く配置し、光を取り入れる計画としています。	4.0	0.60		
2 方位別開口		3.0	-		
3 昼光利用設備		3.0	0.40		
3.2 グレア対策		1.0	0.30		
1 昼光制御		1.0	1.00		
3.3 照度		3.0	0.15		
3.4 照明制御		3.0	0.25		
4 空気環境		2.6	0.25		2.6
4.1 発生源対策		3.0	0.50		
1 化学汚染物質		3.0	1.00		
4.2 換気		3.0	0.30		
1 換気量		3.0	0.33		
2 自然換気性能		3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		
4.3 運用管理		1.0	0.20		
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50		
2 喫煙の制御		1.0	0.50		
Q2 サービス性能			0.30		2.4
1 機能性		1.7	0.40		1.7
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40		
1 広さ・収納性		1.0	0.33		
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33		
3 バリアフリー計画		1.0	0.33		
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30		
1 広さ感・景観		3.0	0.33		
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33		
3 内装計画		1.0	0.33		
1.3 維持管理		2.0	0.30		
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50		
2 耐用性・信頼性		2.6	0.30		2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		
2.4 信頼性		1.0	0.20		
1 空調・換気設備		1.0	0.20		
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20		
3 電気設備		1.0	0.20		
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20		
5 通信・情報設備		1.0	0.20		

3	対応性・更新性		2.7	0.30	-	2.7
	3.1 空間のゆとり		2.6	0.30	-	
	1 階高のゆとり	-	1.0	0.60	-	
	2 空間の形状・自由さ	建物の自由度を高く計画しています。	5.0	0.40	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	
	3.3 設備の更新性		2.6	0.40	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	
	5 設備機器の更新性	-	1.0	0.20	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	
Q3 室外環境(敷地内)			2.0	0.39	-	2.0
1	生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮	-	2.0	0.30	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			3.2			
LR1 エネルギー			5.0	0.40	-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	モデル建物法 BPlm=0.58, BEIm=0.66	5.0	0.20	-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	3.0
3	設備システムの高効率化	-	4.4	0.50	-	4.4
4	効率的運用	-	2.0	0.20	-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	
	4.2 運用管理体制	-	1.0	0.50	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	
LR2 資源(エネルギー)			3.0	0.30	-	2.6
1	水資源保護		2.2	0.20	-	2.2
	1.1 節水		1.0	0.40	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	2.6
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.20	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境			3.0	0.30	-	2.9
1	地球温暖化への配慮		3.9	0.33	-	3.9
2	地域環境への配慮		2.3	0.33	-	2.3
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	
3	周辺環境への配慮		2.4	0.33	-	2.4
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	
	1 騒音	-	3.0	0.33	-	
	2 振動	-	3.0	0.33	-	
	3 悪臭	-	3.0	0.33	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		1.6	0.40	-	
	1 風害の抑制	-	1.0	0.70	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	
	2 曇光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

関西よつ葉連絡会・物流センター新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	1.0													
1.3.1 維持管理に配慮した設計	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	1.0				○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-														
2.4.2 給排水・衛生設備	-														
2.4.3 電気設備	-														
2.4.5 通信・情報設備	-														
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0				2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0			1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0							1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0			2.0	-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-														
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無															
2.1 材料使用量の削減	1.0			1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用															
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-														
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0							2.0	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0				1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-														
3.2.2 砂塵の抑制	-														
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0			2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSG - 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m ² K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAG - ηAH -															
3.1.1 昼光率															
4.2.2 自然換気性能															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
1.2.1 広さ感・景観															
1.2.2 リフレッシュスペース															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
3.1.1 階高のゆとり															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
3.2 荷重のゆとり															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
2 自然エネルギー利用															
3 設備システムの高効率化															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
3.2.1 消火剤															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
3.2.3 冷媒															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															
見付面積比 #DIV/0! 隣接間隔指標Rw -															
地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!															
見付面積Sb m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅We 0 m 基準高さHb 0 m															
緑地 m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²															